

平成 29 年度 水土文化研究部会企画セッション

相模地域の地域づくりにおける水土の知 — 復興と地域創生の観点から —

日時： 平成 29 年 8 月 30 日（水）
14 時 20 分から 16 時 00 分

場所： 日本大学生物資源科学部
1 号館 2 階 122 講義室（第 2 会場）

内容・講演者

- 1) 富士山噴火による酒匂川流域の災害と復興
— 田中休愚の事績を中心に —
関口康弘（神奈川県立秦野曾屋高等学校）
- 2) 報徳仕法の地域再生 — 相州片岡村・克讓社仕法 —
早田旅人（平塚市博物館）

企画セッションの概要

近年、記録を更新し続けるような豪雨や未曾有の大規模地震等による重大災害の頻発、あるいは少子高齢化や過疎化に伴う集落消滅の懸念等、農村地域の危機的な状況が顕著である。そのような状況は過去にも幾度となく訪れ、先人たちはいつの時代にもそこから再生を図ってきた。近世後期、地震や火山噴火、洪水などが多発するとともに、商品経済の発展による収奪が進み、関東地方の農村は荒廃の極みに達し、多数の村落が消滅の危機に瀕していたといわれる。この状況に対し、領主や民間からさまざまな復興・創生策（仕法）が講じられ、その一部は明治維新後にも継承された。本セッションでは、神奈川県下、主として相模地域での事例をもとに、その特徴や歴史的意義、現代への政策的インプリケーション等を議論する。

オーガナイザー：広瀬 伸（三井住友建設（株））